

を一番美しいと判定してくれたら御礼にこういう褒美を上げようと交渉をした。これが有名な「パリスの審判」である。さて、あなたは誰が最高の美女神に選ばれたと思うであろうか。ヴィーナスは、もし自分を選んでくれたら「世界一美しい(人間の)女性」を上げると言い、ジューノーは「世界を統治する権利」を上げると言い、アテナは「あらゆる戦争での勝利」を上げると言った。あなたが男性であったならば、どの褒美を選ぶであろうか。美貌の王子パリスは、ヴィーナスを一番美しい女神に選んだ。ゆえに今日までヴィーナスは「愛と美の女神」としての名声を保っているのである。そしてパリスは世界で一番の美女を手に入れるはずであった。

さて、当時世界で一番美しいと言われていた女性はトロイのヘレン(ヘレナ或いはヘレネとも呼ばれる)であった。ヘレンは、白鳥に変身したジュピターが美女レダに産ませた女性であった。だから半分は神の血を引いていると言える。彼女は、ギリシアの王アガメムノンの弟であるメネラオス王の妻であった。しかしパリスは強引に人妻ヘレンを奪ってトロイへ連れてきてしまったのである。数年前に、映画『トロイ』が作製されて日本でも上映され、好評を博した。あの映画ではアキレス(「アキレス腱」という言葉の元になったギリシアの英雄)が主人公であったが、ヘレンとパリスの恋愛もかなり詳しく描かれていたので、興味がある人は『トロイ』をビデオテープで観てほしい。映画の中では、ヘレンはかなり年上の夫メネラオスと政略結婚させられたのであり、夫を愛してはいなかったことになっている。それゆえに美貌の王子パリスにはたちまち心を奪われてしまったのである。

だが、ギリシアの王メネラオスは、自分の妻を奪われて黙っているわけにはいかなかったし、彼の兄のアガメムノンもかねてからトロイを征服したいと思っていたので、弟の妻ヘレンをトロイの王子に奪われたことを、トロイに戦争を仕掛けるための絶好の口実にした。彼は、当時の都市国家をまとめギリシア全軍を組織して、表向きはヘレ

ン奪回のためにトロイへ遠征に出かけたのである。トロイは堅固な要塞に囲まれ、陥落させるのは容易ではなかった。しかしギリシアの知将として有名であったオデュッセウス(都市国家イタカの王)が、かの有名な「トロイの木馬」を思いついて作戦を立て、遂にトロイを陥落させたのであった。このトロイ遠征の一連の話と、オデュッセウスが故郷のギリシアの自分の国イタカへ帰郷するまでの一連の物語がホメロス作の『オデュッセイア』(ラテン名から来た英語では『ユリシーズ』と言う)である。

上述したように、不和の女神エリスのせいでトロイ戦争は始まったのであった。そして、今回新惑星になぜ「エリス」と名前がつけられたのかと言えば、旧惑星「プルートー」を矮惑星に降格させてエリスを新惑星に昇格することに反対した科学者たちがいて、学者の間で論争があったためと考えられる。新惑星は科学者間に不和を生じさせたので、その結果「エリス」と命名されたのであると思われる。

コラム

韓国雑学：ことばと文化の散策

ふるさと あせい
古里 亜星

【一】ノドンとテポドン

質問 「北朝鮮のミサイル。ノドンとかテポドンとかドン・ドンが付くのはなぜ？ ノドン、テポドンって名前、なにか意味があんの？」

解答1 まず「ノドン」。1993年に発射された1段式ミサイル。私をはじめ、韓国人の多くも誤解していたようだが、実はこの名は朝鮮労働党の「労働：ノドン、노동」に由来する名ではなかった。ノドンとは、同ミサイル実験施設のある地名「蘆洞：ノドン、노동」から取って、アメリカを

中心とする西側がつけた名称。つまり西側がつけたコード・ネームであった。近年、北朝鮮での公式名称が「木星：モクソン」であることが明らかとなっている。

解答2 1998年に発射された3段式ミサイル「テポドン」も同様、同ミサイル実験・発射施設のある地名 咸鏡北道、花台郡、舞水里 の旧名称「大浦洞：テポドン、대포동」にちなみ西側がつけた名称。こちらの方も近年、北での公式名称が「白頭山：ペクツウサン」であることが明らかとなっている。

以上、ノドンは「蘆洞」、テポドンは「大浦洞」というそれぞれ地名にちなんで西側がつけたミサイルの通称であり、それぞれ公式名称は「木星」「白頭山」であった。(和田/石坂, 編『岩波小辞典：現代韓国・朝鮮』2002.参)

解答3 ではノドン、テポドンの「ドン」とは何か？

「ドン：洞、동」は、日本の住所表示で言えば「町」に近い(ただし、一般的に日本の「町」よりも広く、人口も多い)。韓国の代表的住所を示してみよう。

156-756 Seoul 特別市 銅雀区 黒石洞 221
中央大学校

431-070 京畿道 安養市 東安区 平村洞
現代 APT.108-1005 朴英和

330-070 忠清南道 天安市 院城洞 29 裴勇俊
「～区」、または「～市」の次に来る「洞：ドン」が日本の「町」に当たることが分るのであろう(なお、頭の数字は郵便番号の類)。ソウルの繁華街「明・洞：ミョンドン」や骨董品街「仁寺・洞：インサドン」もこの「洞」。——《まとめ》「ノドン」「テポドン」の「洞：ドン」は、日本の「町」に当たる住所区画の一であった。

【二】韓国人の姓(苗字)

日本人の「姓」が一体どれだけあるのかは、正確には分っていない。生命保険会社の資料による調査しかないからだ。分っているのは、少なくとも150,000以上～300,000以内の「姓」が存するということだという。日本人の姓の多さは、世界でも異例だそうだ。

これに対し、韓国人の「姓」は300以内、正確には280ほどである(最近、日本から帰化した「岡田」などの新種の姓が追加され、徐々にその数が増えているようだ)。いずれにしろ15～30万対3百というのは、驚くべき対比だという他なく、ここから様々な異文化現象が起きる。

韓国では「三大姓」と称されるベスト3の姓があり「金」「李」「朴」の順であり、この三つの姓が韓国民の約半分近くを占める。例えば大学の教室。50名のクラスでも、なにしろクラスの半分はこの「金、李、朴」であるのだから、「金さん」などと名前を呼んでも10名以上の学生が「はい!」「はい!」「はい!」とあちらこちらで返事する。「李さん」も「朴さん」も同様であるばかりか、「崔」「鄭」「林」なども多い。つまり韓国社会では、学生であれ誰であれ「金さん」では識別の用をはたさず、「李勝勳氏(「氏」は「さん」に当たる)のごとく「フル・ネーム」で名前を覚え、かつ用いなければいけないのである。幼少の頃から学校や地域などでフル・ネームで呼ばれることに慣れている韓国人は、急に「姓」だけで呼ばれると何かそぐわない違和感を抱える。韓国人留学生に対しては、是非フル・ネームで呼びたいものである。そして親しくなれば、「Given Name」つまり「勝勳さん」と呼ぶ。いずれにしても普通「姓」だけで呼ぶ、呼ばれるという習慣はない(ただし、「金先生任」とか「金課長任」のように姓の下に職名と様に当たる任を付加する場合などはある)。

それだけではない。「同姓同名」の学生も多いのだ。例えば「金美姫：キム・ミヒ」という学生が60名のクラスに3名もいたりする。教務課の学生名簿は最初から「金美姫A,B,C」と区別しており、教室でも「金美姫Aさん」「金美姫Bさん」などと呼ぶ。教室でも苦労するが、特に試験の採点時や成績記入時などには、つい間違えてしまいそうになる。

このことは社会生活にも様々な影響を与える。例えば韓国では「電話帳」はほとんど役に立たない。「金美姫」を調べてみても、2ページにわたって延々と続くからだ。また「印鑑」も必ずフル・ネームのものを作っておかないと、銀行や郵便局

で断られたりする。あるいは韓国では犯罪者の検挙率が低いと言われるが、おそらくはこうした同姓の多さ、同姓同名の多さによる部分が無関係ではないだろうとされる。同様この国の郵便事情の悪さも、ここに起因すると言われる。

学生の中には「林信子、イム・シンジャ」や「南正男、ナム・ジョンナム」など「日本に是非留学しなさい」と言いたくなるような名前の学生がいる。かと思えば、「金玉子、キム・オクチャ」という女学生、「金万珍、キム・マンジン」という大変優秀だった男子学生など、内心「日本にだけは留学してほしくない」などと思う学生もいた（しかし「金万珍」君は日本に留学してしまった）。逆に、日本人で「上野：ウエノ」、「関：セキ」、「井関：イセキ」、「柴：シバ」、「柴田：シバタ」、「野間：ノマ」、「井野間：イノマ」などの姓の学生が韓国に留学すれば、ひととき目立つ存在となり注目を引くのは間違いない。国際化とは、こうした類の影や光を伴うものだ。

意外と知られていない一つは、韓国女性は結婚しても「姓」が変わらないという点。またこれに関連して、韓国の一般のマンション家庭などには「表札」がないことも意外と知られていない。つまり中国や台湾と同様、韓国では「夫婦別姓」である。ゆえに、例えば3世代が同居していれば、その家庭には3つの「姓」の家族が同居していることとなる。嫁いで来た「おばあちゃん」と「お母さん」の姓は他の家族とは異なるからだ（子供は父の姓を受け継ぐ）。この場合「表札」には3つの「姓」名を書かなければならなくなる。夫婦二人だけの家庭でも「表札」には二つの「姓」名を記さなければならない。従ってそんな面倒な「表札」など、実際郵便配達などの役にも立たないので、作らないのである。

なお、ついでに言えば日本でも「夫婦同姓」となったのは明治30年代以降のことである。それまでは武士社会においても、一部の例外を除き基本的に夫婦別姓であった。例えば明治26年になっても内務省は、女性は結婚後も「生家ノ姓ヲ称スル」ことを指令している。歴史的には一般に、キリスト教国では夫婦同姓、それ以外の文化圏（儒教圏、イスラム圏など）では夫婦別姓であったようだ。

日本では、明治の中期以降にいたり欧米キリスト教国の影響下、あるいはそれをモデル化したため、政府主導で「夫婦同姓」にしたわけだ（加地伸行『儒教とは何か』中公新書、'90、参）。

韓国人は日本人よりはるかに「姓」を重要視する。それは個人の愛着の問題などではなく、歴史伝統に基づく社会的規範だと言ってよい。従って、かつては「姓」を変えたり捨てたりすることは、一族と社会に対する違反・背信とみなされた。在日1世や2世が帰化を拒んだ理由の一は、この「姓」の変更に対する拒否にあったといわれる。しかし社会が移り時代が変わるとともに、日本のみではなくアメリカ移住の韓国人社会でも「夫婦同姓」という米国社会への自然な適合化が急速に進んでいるという。

追記。このコラム「韓国雑学：ことばと文化の散策」は、全学生、全教職員に解放しているコーナーですので、「韓国旅行記」「韓ドラ記」などなど、どなたでも御自由に投稿ください。問合せ「語研(須藤)」まで。